

「総合学習開発演習」による 総合的な学習の時間へのとらえの変化についての研究

藤上 真弓

A Study on changes in attitude and image for "the Period for Integrated Study"
by "Seminar on Program Development of Integrated Study"

FUJIKAMI Mayumi
(Received August 3, 2017)

キーワード：教員養成、総合的な学習の時間、探究的な学習、協同的な学習

はじめに

平成25年度の「全国学力・学習状況調査報告書クロス集計」では、以下のように、総合的な学習の時間の学びを充実させることが、他の教科等の学習の充実につながっているという分析結果が掲載された。

平成25年度新規調査項目では、授業などで学級やグループで話し合う活動、言語活動に重点を置いた指導計画の作成、総合的な学習の時間における探究活動を積極的に行っている学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られた。(中略) 児童生徒の認識として、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童生徒について、教科の平均正答率が高い傾向が見られた。

(文部科学省、国立教育政策研究所、p. 9、2013)

この結果は、総合的な学習の時間の取組は、学校間格差が見られるということを表しているものとも言える。それだけでなく、総合的な学習の時間においては、校種間、学校間、学年間、教師間においても取組の格差が大きいのが現状である。

学習指導要領が改訂されるたびに、それらに対応する教育を実践していくために、改訂の新しいキーワードや新たに付け加わる教科・内容等に関する研修が多くなる。それは、子どもたちに力を付けるために、今求められている教育や授業のあり方について把握し、学ぼうとする教員の姿ともとらえることができる。しかし、それらの対応に力を注ぐばかりに、それ以外の教科等・内容に対して目を向けたり、力を入れたりすることが少なくなってしまうという問題もある。平成10年度の学習指導要領改訂において創設されることになった総合的な学習の時間においても、移行期間から何年間かは校内研修で取り扱う学校も多く、多くの学校で授業研究も行われた。その頃は、全国にある附属小学校・中学校において、各教科専門の教員であっても、研究発表大会で総合的な学習の時間の様々なアプローチの仕方を提案したり、授業公開をしたりしていた。しかし、今は、総合的な学習の時間を担当する教員のみが授業公開する学校が多い。または、授業公開がない学校もある。筆者が小学校教員だった頃に、若手教員から、「総合的な学習の時間の授業研究というものを見てきたことがないから、どのように単元開発や授業をしたらよいかイメージがあまり湧かず不安である」と相談を受けることも何度かあった。

山口県においては、全ての小・中学校がコミュニティ・スクールに指定され、地域を学びの根源とする生活科や総合的な学習の時間を柱とした小中連携・一貫カリキュラムを作成している学校も多くなってきており、再び研修内容に取り入れている学校もある。今一度、地域を学びの根源とする総合的な学習の時間につ

いて見つめ直すチャンスであると考えている。

また、学習指導要領を平成34年度から年次進行で実施する高等学校において、総合的な学習の時間は、「総合的な探究の時間（仮称）」と名称が変わる予定である。教科において、科目構成等に変更があるものが多く、国語科では「古典探究（仮）」、地理歴史科では「地理探究（仮称）」「日本史探究（仮称）」「世界史探究（仮称）」、理数科では「理数探究（仮称）」「理数探究基礎（仮称）」というように「探究」という名称が付く科目ができる予定である。「総合的な探究の時間（仮）」は、「理数探究（仮）の新設などの状況も踏まえ、探究する能力を育むための総仕上げとしての位置付け」（文部科学省，p.9）と説明されている。これまで総合的な学習の時間にも用いられていた「探究」という言葉が、教科においても用いられる意味について考えていかねばならない。このことは、当たり前ではあるが、小学校・中学校における総合的な学習の時間の学びにおいて、子どもが探究的な学びを充実させてきているという前提であるということである。総合的な学習の時間が果たすべき役割について、校種を越えて議論し、共有していくチャンスであると考えている。

このような学校現場が抱える課題や学習指導要領の改訂の方向性から考えて、教員養成段階から、学生が総合的な学習の時間の理論についての理解を深めていく必要性を感じた。それだけでなく、理論を実践につなぐ方向性や、小学校4年間、中学校3年間、高等学校3年間の総合的な学習の時間の学びをつなぐためカリキュラムの在り方、教科等の学びとの関連付け方等についてもとらえさせておく必要を感じた。

1. 研究の方法

1-1 目的

総合学習開発演習の講義を通して、受講する学生が、総合的な学習の時間に対するとらえをどのように変容させていったか、分析する。

1-2 方法

振り返りカードを用いて、「総合的な学習の時間とは、ズバリ〇〇である」と問い続け、変容の過程と結果をとらえていく。

2. 研究の実際

2-1 授業の概要

2-1-1 概要と一般目標

本講義は、平成28年度山口大学教育学部学校教育教員養成課程小学校教育コース3年の学生対象（選択科目）に後期に実施したものである。

表1は、シラバスに掲載した授業の概要と一般目標である。

表1 総合学習開発演習の概要と一般目標

概要	総合的な学習の時間の教育理念や教育原理、カリキュラム開発や単元開発、授業づくり等に必要視点を方法、考え方等について学ぶとともに、授業実践における子どもの学びの事実を分析・考察し、子どもの体験世界に寄り添いながら、総合的な学習の時間における学びへの理解を深めたり、実践化を図っていくための資質や能力を高めたりする講義を行う。
一般目標	1. 総合的な学習の時間の教育理念や教育原理、目標、内容、方法、課題について理解する。 2. 児童の発達段階や今日的課題、各教科等で身に付ける知識・技能等と関連付けながら、総合的な学習の時間のカリキュラム開発や単元開発、授業づくりに必要視点を方法、考え方等について理解する。 3. 協同的で探究的な学びを生み出す教師の手立ての在り方について理解する。

2-1-2 実施した主な活動

表2は、総合学習開発演習で実施した主な活動である。

表2 総合学習開発演習で実施した主な活動

講義	実施した主な活動
第1週 (10月3日) 第2週 (10月17日)	*教育実習中 ○総合的な学習の時間についての思い出について整理する
第3週 (10月24日)	○総合的な学習の時間で心に残った単元について交流する ○講義を受ける前の総合的な学習の時間についての考えを記述し、語り合う ○総合的な学習の時間(小学校)の目標をもとに総合的な学習の時間についてとらえる ○「探究的な学び」と「問題解決的な学び」の違いについて語り合う
第4週 (10月31日)	○子どもたちの「今」や「未来」をとらえる ・職業の在り方の変化予想をもとに考える (コンピューターによって「消える職業」「なくなる職業」) ・意識調査をもとに考える(ロボットにどこまで任せられるか) ・社会の変遷をもとに考える ○子どもに必要な力をとらえる ・求められるスキルの傾向と求められる人材をもとに考える ○授業の質的転換をはかるための具体について考える ・探究的なプロセスを生み出すための手立て ・協同的な学びを深めていくための手立て
第5週 (11月7日)	○福祉(ユニバーサルデザイン)に関わる単元の導入をもとに考える ・子どもの視点と教師の視点を往復させながら、「人にやさしい形」について分析する ・学び方の活用を促す発問やワークシート等の工夫について考える ・双方向的な関わりを生み出す子どもの語り方について考える
第6週 (11月14日)	○福祉(ユニバーサルデザイン)に関わる単元をもとに考える ・子どもの視点と教師の視点を往復させながら、教師が提示した「人にやさしい形」を分析し、協同的な学びを深めるための手立てや板書等について考える
第7週 (11月21日)	○福祉(ユニバーサルデザイン)に関わる単元をもとに考える ・子どもの視点と教師の視点を往復させながら、協同的な学びを深めるための課題(発問・場づくり)について考える ・子どもと子どもの意見をつないだり、整理したりする板書の在り方について考える
第8週 (11月28日)	○福祉(ユニバーサルデザイン)に関わる単元をもとに考える ・子どもの視点と教師の視点を往復させながら、学生自身が見付けてきた「人にやさしい形」とその根拠について紹介し合い、それらの分析方法について考える
第9週 (12月5日)	○福祉(ユニバーサルデザイン)に関わる単元をもとに考える ・子どもの視点と教師の視点を往復させながら、見付けた形について班で分析する活動をし、思考の過程や結果を伝えるための表現物の在り方について考える
第10週 (12月12日)	○福祉(ユニバーサルデザイン)に関わる単元をもとに考える ・子どもの視点と教師の視点を往復させながら、単元のまとめの段階の授業デザインについて考える
第11週 (12月19日)	○総合的な学習の時間の必要性について考える ○総合的な学習の時間を生み出すための教材研究の在り方について考える ○総合的な学習の時間で身に付けたい学び方について考える ・思考ツールやワークシート等の様々な手法について知り、ふさわしい活用方法について考える ○地域に関わる単元をもとに、思考力・判断力・表現力を育成する総合的な学習の時間の在り方について考える
第12週 (12月26日)	○地域に関わる単元をもとに、思考力・判断力・表現力を育成する総合的な学習の時間の在り方について考える
第13週 1月16日	○園小中一貫教育におけるキャリア教育の進め方について考える ・キャリア教育の定義について知り、キャリア教育の必要性について考える ・キャリア教育の方向性について考える (発達段階、新1年生・卒業前の6年生、中学生が就きたい職業等) ・基礎的・汎用的能力やそれらを子どもに身に付けさせる手立てについて考える
第14週 (1月23日)	○キャリア教育に関わる単元をもとに、思考力・判断力・表現力を育成する総合的な学習の時間の在り方について考える ・対象の思いや願いに迫るための言語活動の在り方について考える
第15週 (1月30日)	○総合的な学習の時間のまとめのレポートを作成する

2-2 学生の振り返りカードの記述をもとにした分析

2-2-1 総合的な学習の時間の思い出見つけ

表3は、学生の総合的な学習の時間で心に残っている単元について調査した結果である。中には、総合的な学習の時間の記憶がないという学生もいた。

表3 総合的な学習の時間において心に残っている単元について

実際は総合的な学習の時間で取り扱うべき内容ではない場合もあるもの	総合的な学習の時間の中で実施されたと思われるもの
<ul style="list-style-type: none"> ○宿泊学習の係決め (小学校・中学校) ○合唱練習 (中学校) ○昔のくらしを体験 (小学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習 (小学校) ○「～川」について調べよう (小学校) ○安全マップづくり (小学校) ○自分の得意を紹介 [ビデオ] (小学生) ○酒まんじゅうづくり (小学校) ○大豆に関連する学び [豆腐工場見学・豆腐づくり] (小学校) ○おもちづくり (小学校) ○自分史づくり (小学校) ○祭り (小学校) ○環境問題についての調べ学習・発表会 (小学校) ○平和学習に関連するもの (小学校) ○環境問題リーフレットの作成 (中学校) ○職場体験 (中学校)

表3を見ても分かるように、総合的な学習の時間の学びとは言い難いものも挙がった。例えば、学級活動や学校行事を、総合的な学習の時間、または互いの学びの充実を図るために関連付けるのではなく、学級活動や学校行事等に置き換えている場合や、教科の学びを充実させるために行った活動や体験を総合的な学習の時間だと記憶している場合等である。

小学校で実践された単元を挙げた学生が多く、高等学校における実践は挙がってこなかった。この事実からは、実践の校種間格差が浮かび上がってくる。しかし、挙げられた小学校の実践を見ると、活動や体験したことが心に残っており、そこでどのような見方・考え方を得て、自己の在り方や生き方にどうつなげていったのかということあまり記憶していなかった。これからは活動や体験がもつ力を感じるが、「活動あって学びなし」と批判を受けることにもつながりがちな実践であると考え。中学校の実践である職場体験において何を学んだのかについて問うてみても、そこで働く人々との関わり合いも少なく、働く人々の職業観に迫ったり、自分自身の職業観を見つめたりした記憶はないと答える学生ばかりであった。活動や体験を仕組むまでには、外部人材との打ち合わせや場づくり等、多くの労力が必要であり、それで全ての教師の仕事を成し遂げたかのような感覚になってしまいがちである。しかし、活動や体験は手段であり、そこで得た見方・考え方や生まれた思いや願い、疑問等を整理させ、新たな探究のサイクルを回すことが大切である。

また、学生は、自分の経験をもとにすると、総合的な学習の時間と言えば、「調べ学習をする→模造紙にまとめる→発表会をする」というイメージをもっており、総合的な学習の時間を探究のサイクルでとらえることはできていなかった。

2-2-2 講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え

表4は、講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する学生の考えである。

表4 講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え

学生	講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え
A	「自分の生活のピースを集めてはめていく」時間である。
B	「子どもにとっては忘れやすい！だが教師にとっては大変！」な時間である。
C	「体験を伴った、地域によって違う活動をする」時間である。
D	「地元への愛着心を育む」時間である。
E	「自ら体験し、調べて、発表・共有する」時間である。
F	「教科の学習では学びきれない大切な力を身に付ける」時間である。
G	「勉強だけでない学びを与えられる、生きていく力を培っていくような」時間である。
H	「様々な体験から学んだことを表現する」時間である。
I	「活動や体験をする」時間である。

記述を見ると、FとG以外の学生は、総合的な学習の時間の取組の課題が浮かび上がるような考えである。自己の生き方について考えることをねらう総合的な学習の時間に対して、自分が児童・生徒だった時のとら

えのまま教員になるのでは、子どもの学びと育ちに貢献できる総合的な学習の時間を行うことができるはずもない。受講している学生の総合的な学習の時間にとらえを大きく変容させる必要性が浮き彫りになった。

2-2-3 総合的な学習の時間に対する見方・考え方の変容

① Aの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

表5は、Aの講義前・初講義後・全ての講義の後の総合的な学習の時間に対する振り返りカードの記述である。

表5 Aの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「自分の生活のピースを集めてはめていく」時間である。
↓
初めて講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「自分の疑問を追い求める」時間である。 <ul style="list-style-type: none"> 調べていて新たに生まれた疑問を自分なりに調べていけるから ゴールが決まっていない分、手立てがたくさんあるから 手を変え、品を変え、たくさんの方を試せるから
↓
全ての講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「身近な疑問を仲間とともに探究する」時間である。 総合的な学習の時間は、主に子どもたちの身近なものを題材として、長時間に渡って学習するものである。普段何気なく使っている物や場所、出会っている人などの着目し、ふと疑問に思うところから総合的な学習の時間は始まっていくのである。 総合的な学習の時間の強みは、1つの大きな疑問に対して、クラスの仲間とともに調べ、考え、行動できる部分ではないだろうか。一人では調べきれなかったり、考えつかなくなったりすることでも、2人、3人と集まれば、新たな見方や考え方を互いに共有し、深めることができる。「3人寄れば文殊の知恵」とは、まさにこのことである。 以前の授業内レポートで、「総合的な学習の時間は、探究する時間ではなく、探求する時間なのではないか」ということを書いた。しかし、この半年を通して感じたのは、「探究」の方が総合的な学習の時間らしい言葉だということだ。「探求」は「探し求める」という意味をもつ。身近な疑問の答えを探し求める時は、「探求」を使う方が合っている。しかし、総合的な学習の時間の最終目標は、答えを見つけた上で、その分野を「究める」ことになるのではないだろうか。だから、「探究」という言葉を使うべきなのではないか。 以上のことから、私は「身近な疑問を仲間とともに探究する時間」だと考える。

Aは、講義前には、子どもに身近な人・もの・ことを対象とし、子どもが自分を取り巻く存在の意味や価値を実感する時間であるというとらえをもっていた。それとともに、「あてはめていく」という記述から、子どもが学ぶ過程をイメージできているのではないかと考えたが、その過程の具体的な子どもの姿や着地点についてはイメージできていなかった。全ての講義後は、「探求」と「探究」の違いに言及しながら、総合的な学習の時間の探究的な学びや協同的な学びについて、自分なりの言葉で説明できている。

② Bの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

表6は、Bの講義前・初講義後・全ての講義の後の総合的な学習の時間に対する振り返りカードの記述である。

表6 Bの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「子どもにとっては忘れやすい！だが教師にとっては大変！」な時間である。
↓
初めて講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「子どもの学ぶ基礎をつくる」時間である。 <ul style="list-style-type: none"> 学び方を知らない子どもは自由に学ぶことはできないから 基礎をしっかりつけて、自分の持ち味を知ることが大事だから 学ぶこと、知ることを楽しみと思ってもらうため
↓
全ての講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「様々な視点から物事を考える方法を学ぶ」時間である。 今回の講義では、実際に子どもと同じ視点に立って考える活動が多かったが、学生である私でも、この授業を受ける回数を重ねれば重ねるほど、物事に対する考え方が深まったと感じた。 この経験から、子どもたちにとって考え方を学ぶことが大切なのだ気付いた。考え方が分かれば、積極的に疑問をもとうと思うこともでき、自分なりの意見をもち易くなる。この活動は、総合的な学習の時間だけに留まらず、全ての学習において、今後、子どもたちを支えるものになると思う。 また、総合的な学習の時間の学びには答えが無いので、考え方を自分の中で試行錯誤したり、思い切って周りに発信したりすることができる雰囲気をつくりやすい。教師側にとっても、一人ひとりを価値付けを行いやすい時間とな

っているので、この時間にしっかり自己肯定感を育てることができると思う。
以上の理由から、私はズバリ！総合的な学習の時間で、子どもに考え方を学ばせたい。

Bは、講義前は、総合的な学習の時間における教師の単元開発や教材研究、授業づくり等に対して負担感をもち、そのわりに子どもたちにとっては意味や価値を実感しづらい時間ではないかというとらえであった。しかし、全ての講義後は、総合的な学習の時間が子どもの学びや育ちに貢献する役割についてとらえ、総合的な学習の時間で得た学び方や見方・考え方等は、全ての教科等も支えるものとなるという考えに至った。

③ Cの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

表7は、Cの講義前・初講義後・全ての講義の後の総合的な学習の時間に対する振り返りカードの記述である。

表7 Cの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「体験を伴った、地域によって違う活動をする」時間である。
↓
初めて講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「①自分の世界を②広げ、③学びを蓄積する」時間である。 ・①自ら、主体的など自分から自分の考えを深めていく時間だから ・②友達との共有や協同し合う活動を通して、自分だけの考えを広げ、より充実させていくから ・③1回の授業で終わるのではなく、1年間、中学校、高等学校へと学びを深めていくことができるから
↓
全ての講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「答えのないものを多視点から探究し、自分の世界を広げる時間」である。 総合的な学習の時間では、答えのない題材を取り扱う。そのため、意見や考えを正誤のみで判断するのではなく、全ての考えを素直に認めることができる。このことにより、自分の良さや相手のよさを知ることができ、協同的な学習の良さを実感することができる。 また、答えのないものを探究していくには、様々な視点から物事を見る必要が出てくる。そのため、違う視点をもった友達と協同し合う。様々な視点からの意見を探究に生かすことにより、自分自身の思いが深まってくると、他の人に伝えたい、自分の思いを表現したいという思いが生まれる。この思いが、自分の言葉で表現する力を育てる。また、表現する際にも、得た視点を生かし、相手を意識した見出し、配置、まとめ方などの工夫ができる。 答えのないものを探究していくと、紆余曲折しながらも物事の本質に近づいていく。その過程で得た見方や考え方、学び方、スキルは自分の世界を広げ、また新たなステップへの足掛かりとなる。 これらの理由により、私は総合的な学習の時間を「答えのないものを多視点から探究し、自分の世界を広げる時間」と考えたのである。

Cは、講義前は、活動や体験を重視することや地域を学びの根源とすることには目が向いていたが、活動や体験は学びを深める手段であることには気付けていなかった。全ての講義後では、総合的な学習の時間で取り扱う課題は、子どもにとって身近であるが、一人では解決が難しい現代社会や地域社会における「答えなき問い」であることをとらえていた。それとともに、「答えなき問い」に立ち向かわせるための協同的な学びの場面における留意点や、子ども一人ひとりが、「答えなき問い」立ち向かいながら本質を見極める目や術をもち、自分自身を再構築しながら成長していくことについて、自分なりの言葉で説明できていた。

④ Dの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

表8は、Dの講義前・初講義後・全ての講義の後の総合的な学習の時間に対する振り返りカードの記述である。

表8 Dの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「地元への愛着心を育む」時間である。
↓
初めて講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「自己の生き方について考えることができる時間」である。 ・様々な人やものの価値観、考え方にふれる中で、自己について考えることができるから ・「自ら」考え、学ぶ時間が多くあるから ・他者とのかかわりの中で、自分の得意分野は何か、自分が人を助けられる場面はどこかを実感できるから
↓
全ての講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間は、「現代社会の答えなき問いに立ち向かう姿勢を身に付ける」時間であると考えた。 1つめの理由は、「地域とのつながりが多い」ということから考えた。授業の一環として町へ出て、人、そして地域とつながることは、今の社会を知る一番の近道だと考える。どのようなことが地域で起こっているか、どのような

思いをもって地域の人は働いたり、生活したりしているのかを知るところから、興味・関心は芽生えると思う。

2つめの理由は、「多様な価値観にふれること」ができる時間であるからである。地域の人々はもちろん、学級の仲間たちと様々な意見交換を行う。これを通して、自分を認識するとともに、今まで越えられなかった課題を仲間の意見を聞くことで越えられたり、越えるだけでなく新たな発見があったりする。この積み重ねで、答えなき問いにも、自分から立ち向かおうとする姿勢が身に付くのではないかと考える。

最後の理由は、「自分を知っていくことができる時間」であるからである。総合的な学習の時間では、今まで知らなかったことが明白になっていたり、自分の役割を他者との関わりの中で徐々に知っていきたりすることができる。これらを通して、「ぼく・わたし」とは何か分り始めると考える。自分を知ることによって、「自分だけの問題に立ち向かう姿勢」が確固たるものになると私は思う。

Dは、講義前は、「地域への愛着」という、地域を学びの根源とする総合的な学習の時間が果たすべき役割の1つに着目していた。全ての講義後は、自分の持ち味を自覚したり、自己と向き合ったりするための時間であるというとらえも付け加わっている。また、地域とのつながりは重要視しながら、愛着心だけでなく、子どもたちがどのような見方・考え方や姿勢等を身に付けることができるのか、具体的に説明している。

⑤ Eの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

表9は、Eの講義前・初講義後・全ての講義の後の総合的な学習の時間に対する振り返りカードの記述である。

表9 Eの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「自ら体験し、調べて、発表・共有する」時間である。
↓
初めて講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「問題の答えを1つ見つけて終わるのではなく、探究的（サイクル的）な学びをする時間」である。 <ul style="list-style-type: none"> ・上記のようにすることで、他の人の多様な考え方を知ることができるから ・多様な考え方を知るとは、自己の生き方を考えることにつながるから ・調べ続けようとする姿勢を身に付けることができ、深い学びにできるから
↓
全ての講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
「子どもたち自身が興味をもって、探究的な学びをする」時間である。 まず、子どもたちに学習に対する興味をもたせることが大切である。興味をもたないと、「学びたい！」という意欲にはつながらない。逆に、興味や愛着をもたせることで、調べることや探究することが楽しいと思えるだろう。思いや願いを十分に耕し、「～する！」という必要観をもたせることが必要だ。 そして、探究的（サイクル的）な学習にすることも欠かせない。問題の答えを1つ見つけて終わるのではなく、学び続けることを楽しむ気持ちを子どもたちにもたせたい。そうすることで、多様な考え方を知ることができるとともに、自己の生き方を考えることにもつながる。そのためにも、学び続けるために必要な資質・能力を子どもたちに身に付けさせないといけない。 学び続けるために必要な資質・能力の1つとして、「学び方」が挙げられると思う。調べたことをどうまとめるのが一番効果的なのかなど、学ぶ手順や方法を日々の授業の中で子どもたちに徹底して身に付けるべきである。そうすることで、「学び方」を活用することができ、探究的な学習にもつながっていくだろう。

Eは、講義前には、自分が経験してきた「調べ活動をして模造紙でまとめ、発表する」という形式が、総合的な学習の時間の学びのイメージとなっていた。しかし、全ての講義後には、まずは、子どもの心に火を付ける思いや願いの耕しや、それをもとにして学ぼうとする強い意志をもたせて探究のサイクルをスタートさせていくことの必要性に気付いている。そして、学び続けていくことができるようになるための資質・能力を確実に身に付けていく必要性についても述べている。

⑥ Fの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

表10は、Fの講義前・初講義後・全ての講義の後の総合的な学習の時間に対する振り返りカードの記述である。

表10 Fの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「教科の学習では学びきれない大切な力を身に付ける」時間である。
↓
初めて講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「教科では学びきれない、その子のこれからの生き方に関わる学びの」時間である。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科で学んできた力を活用・応用できる時間だから ・他者と関わりながら、「自分」を見つめ直せる時間だから ・総合的な学習の時間に学んだことが、その子の将来の土台になることも多いから（環境問題や職場体験など）

↓

全ての講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
<p>総合的な学習の時間とは、「未来をつくる時間」である。</p> <p>私は、総合的な学習の時間を通して、過去を振り返り、現在に関わり、未来をつくっていくことができると感じた。ある疑問・問いに関して、まずは自らの経験（過去）から、自分の考えをつくる。それが、学んでいく中で、他者や社会、自然と密接に関わることで深まったり、塗り変わったり、新たなものが追加されたりしていく（現在）。こうして、他を見て、それを自分に返す…を総合的な学習の時間に繰り返していくことが、これから社会に出て生きていくその子の“未来”づくり、生き方のベースや生きがいを見付ける手助けになるのではないかと考えた。</p> <p>現に、私自身も総合的な学習の時間で環境問題について自ら課題を見つけ、学びを深めたことで、一時は環境にやさしい製品をつくる開発者になりたいと考えていた。総合的な学習の時間の学び＝将来の夢とは限らないが、総合的な学習の時間に、子どもが社会と密接に関わっていくことは、その子の将来の選択肢を増やす助け、その子の考え方の視野を広げる助けにはなっていると考える。</p> <p>このように、私は総合的な学習の時間は、未来をつくる時間だと考える。</p>

Fは、小学校で取り組んだ環境問題に関わる単元の学びが充実していた実感を講義前からもっていたため、最初から、教科と総合的な学習の時間が果たすべき役割の違いに気付いていた。会が進むたびに、自分の経験してきたことと講義の内容をさらに深く結び付け、総合的な学習の時間は、子ども一人ひとりが未来を切り拓くための術や見方・考え方等を手に入れていく時間であるという考えを深めていった。

⑦ Gの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

表11は、Gの講義前・初講義後・全ての講義の後の総合的な学習の時間に対する振り返りカードの記述である。

表11 Gの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え
「勉強だけでない学びを与えられる、生きていく力を培っていくような」時間である。
↓
初めて講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
<p>総合的な学習の時間とは、「学びの基礎をつくる場であり、活用する場となる」時間である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の教科や領域で学んできたことを発揮できるから ・知りたい！身に付けたい！など、学習の動機と成る探求心を養うことができるから ・学習だけで終わらすために学習していると思わせないから
↓
全ての講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
<p>総合的な学習の時間とは、「最期の日までずっと続く学びのための大切な」時間である。</p> <p>こう考えた理由は3つある。</p> <p>まず、総合的な学習の時間の目標は、自己の生き方を考えることができるようにすることであるからである。自己の生き方を考えるということは、自分を高めようとするにつながりがあると思う。そして、自分を高めるためには、学ぶという活動が必要不可欠である。総合的な学習の時間では、学ぶために必要な「どう学ぶのか」という学び方を習得することができる。学び方を習得し、それをを用いる機会を設定することで、応用して他教科にもつなげることができる。学びの楽しさや学ぶ喜びを知ることができれば、さらなる学びの欲求につながると考えるからである。</p> <p>2つめの理由は、自分を高めようとするには、自分の現在地を知ることが大切であり、そのために総合的な学習の時間が必要だと考えるからである。自分の現在地を知ることが、すなわち自分自身と向き合うということだ。自分自身と向き合うことは、他者との関わりがあってはじめて成り立つという側面があると思う。その中で、認め合い、協同することで、広い視野をもつことができると考える。</p> <p>3つめである最期の理由は、学んだり、他者と関わったりする中で、自分がどうなっていきたいか、未来に目を向けることができるからだ。そこで、学び方などが必要になってくる。学びの積み重ねによって、人は成長していけると私は思う。</p>

Gは、講義前も、総合的な学習の時間が、生きる力を育むための中心的な役割を果たすことをとらえていた。全ての講義後は、総合的な学習の時間が目指すものは、小学校・中学校・高等学校だけの学びに留まらず一生続いていくことや、人は学び続けようとする存在であることに目を向けた考えに至っている。

⑧ Hの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

表12は、Hの講義前・初講義後・全ての講義の後の総合的な学習の時間に対する振り返りカードの記述である。

表12 Hの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「様々な体験から学んだことを表現する」時間である。
↓
初めて講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
<p>総合的な学習の時間とは、「学び方を身に付け、自ら考え、探求し、自分を知る」時間である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、どう反応していくかという「自分なりの応え」を求めていくから ・様々なものの見方や考え方を活用して、確かなものにしていくから

- ・「自分なりの応え」を求めたり、他者とかがわり合う中で、自分のよさにも気付いたりすることができるから

全ての講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え

総合的な学習の時間とは、「社会や集団の中での自分との向き合い方を考える」時間である。

そう考える理由は2つある。

1つめは、社会で生きていく上で、自分と向き合い、自分の考えをもつことが大切であると考えからである。子どもたちが今とこれから生きていく社会には、答えなき問いが山積していると言われる。それらの課題に対して、自分なりの応えをもっていくことが、生き抜くためには必要である。総合的な学習の時間では、推論する学び方も活用するため、課題について、自分の経験から考えたり、自分なりの思いをもったりすることができて、自分との向き合い方を学んでいくことができると思う。

2つめは、人との関わりの中で学ぶからである。友達と考えを交流し、多様な考えにふれることで、自分の考えを再構築することができる。また、身近な集団や地域の人々と関わる活動をすることで、自分がその中の一員であるという意識が生まれると思う。社会の一員としての自分と向き合うことで、周りの人々や社会の課題ともしっかりと向き合うことができるようになる。どんなことにも、「自分ならどうするか?」と、自分のこととして考え、人々と協力しながら生きていくことができる力を身に付ける時間として、総合的な学習の時間は大きな役割を果たすと考える。

Hは、講義前は、総合的な学習の時間は、調べ学習をもとにプレゼンテーションを行う時間だと考え、自分が調べたことや考えたこと等を外に向けて発信するというイメージでとらえていた。全ての講義後は、他者や社会と関わることは、常に、自分と向き合うことにつながるという考えをもつに至っている。総合的な学習の時間における課題を自分ごととしてとらえ、自分の持ち味や得意分野を生かしながら、他者と共に課題解決する経験を積み重ねることで、子どもが生き抜く力を身に付けることができることにも気付いている。

⑨ Iの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

表13は、Iの講義前・初講義後・全ての講義の後の総合的な学習の時間に対する振り返りカードの記述である。

表13 Iの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

講義を受ける前の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「活動や体験をする」時間である。
初めて講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「各教科をまとめ、ものの考え方・見方を身に付ける」時間である。 <ul style="list-style-type: none"> ・各教科を何のために勉強するのか分からないということがある。そこで、その教科をどう使うのか知ること、学ぶことが楽しくなる。 ・議論することはいいことだが、自分の世界も他者に応援されるようなものの見方・考え方をもってほしい。 ・自分の生き方・在り方を考えるには、色々な物・たくさんの人と出会って、たくさん考えることが大事である。
全ての講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「たくさんの人の考えにふれ、自分の本当の考えを導き出す」時間である。 後期、総合学習開発演習の時間はとても充実していた。「人にやさしい形」の活動も、あんなに楽しいと思ったのは、人の意見を聞いたり、表現物を見たりして、心動かされたからだと思う。意見を戦わせることもせず、他の人の意見を聞いて、自分の考えとの違いや共通点を見つけ、内容を深めることができた。他の人のまとめ方やまとめたキーワードのよいところを言い合うことで、「そういうプロセスがあったか」「次は私もこうしてみよう」と学んだり、新たに挑戦したいことを見つけたりすることができたりした。 また、教師が、子どもたち（講義では私たち大学生）が意見を言いやすい環境をつくるのが重要な手立てとなることを学んだ。先生は、みんなが意見を言った後、必ず、一言以上反応してくださった。「間違った答えはない」「たくさんの人と関わらなければ、関わり方が分からないまま」「意見を言う時をつくらなければ、いつまでも言えないまま」ということも実感できた。話し合うことで印象に残って、なかなか忘れないし、後で「あのことが今使える」というように活用できるということも実感できた。 子どもたちには、地域に出てみて、「自分も役に立てる!」と思ってほしい。係決めなどに総合的な学習の時間を使うのではなく、自分の生き方や自分とは何か、よく考えることができる時間にしていきたい。どんな授業があるのか、調べてみようと思った。

Iは、講義前は、総合的な学習の時間は活動や体験をする時間であるというとらえであった。全ての講義後は、子どもの視点と教師の視点を往復させながら講義内容をとらえる活動を設定し続けたので、新たな視点や方法等を得る喜びやそれらを活用する効果、活用できた時の喜び、仲間との深い語り合いがもたらす効果等について、自分自身の実感を伴いながら整理することができていた。筆者が取り扱った実践だけでなく、多くの実践にふれようとする意欲も生まれている。

⑩ Jの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

表14は、Jの講義前・初講義後・全ての講義の後の総合的な学習の時間に対する振り返りカードの記述である。

表14 Jの総合的な学習の時間に対するとらえの変容

10月31日講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「答えのない問いについて考え、学びを得る時間」である。 ・答えなき時代を生き抜く術を知る必要があるから ・探究的なサイクルを生み出すことができるから ・答えのない問いを考えることで、生きる力を身に付けることができるから
↓
全ての講義を受けた後の総合的な学習の時間に対する考え
総合的な学習の時間とは、「自分の考えを自分の言葉で表現する」時間であると考え。 総合的な学習の時間について、今までは、体験的な活動が多く、机に座って書く活動はほとんどないものだと考えていた。しかし、講義を受ける中で、藤上先生は、子どもたちが自分の言葉で自分の考えを表現することを大切にしておられた。総合的な学習の時間は、各教科にも関連しており、各教科で身に付けた知識や技能、見方や考え方を表現することができるようにする時間だ。子どもは、教師が考えていること以上のことを考えており、それを伝える方法は自分（子ども）の言葉である。総合的な学習の時間では、各教科に比べて、より子どもたちの思考が生まれやすいと考えるため、しっかりと表現させてあげる必要がある。 また、総合的な学習の時間は、子どもたちが疑問に思うことを拾って深めることができる時間であるため、その気付きや疑問を見える化して、自分の言葉で結論付けたり、因果関係をもとに説明したりして、自分の考えを自分の言葉で表現することで、学びを自分たちのものにできると考える。

Jは、履修登録するかどうかも迷って、履修登録期間は講義に出席していないため、他の学生と同時期に総合的な学習の時間に対するとらえを記述させることができなかつた。全ての講義後の記述を見ると、講義前は、総合的な学習の時間は、活動や体験をする時間であるというとらえをもっていたことが分かる。講義後は、総合的な学習の時間の特質や各教科等との関連も押さえながら、筆者が総合的な学習の時間の授業づくりだけでなく、全ての教育活動の中で大切にしてきたことをとらえて考えを述べている。

3. 考察

学生の変容の過程と結果を分析して、学生の総合的な学習に対するこれまでのとらえを変えていくためには、教師の立場からコーディネートのあり方について学ぶだけでは不十分であることを改めて認識した。特に、子ども時代に充実した総合的な学習の時間を経験できなかった学生ほど、講義の中で、学ぶ側の立場からも、総合的な学習の時間における探求的・協同的な学びの面白さ、自分にとっての意味や価値等について実感として分かるという経験をさせていくことが大切であると分かった。その実感があるからこそ、主体的・対話的で、深い学びの実現へ向かう手立てへの模索へと動き出すのではないかと考えた。

おわりに

平成26年度入学の学生までは、総合的な学習の時間にかかわる講義は、山口大学教育学部学校教育教員養成課程小学校教育コースにおいて、選択科目（2単位）として3年次に実施される「総合学習開発演習」のみであった。平成27年度入学の学生は、カリキュラム編成が変わり、旧小学校教育コース（現在は小学校教育コース小学校総合選修）で行われてきた講義だけでなく、教育学部学校教育教員養成課程3年次の選択科目（1単位）として、「総合的な学習実践論」も実施している。教師として授業をコーディネートしなくてはならない立場になるのに、総合的な学習の時間の教育原理や授業づくり等について学ばずに教育現場に出してしまう学生も多いことに対しては不安を感じる。今後平成31年度からは、総合的な学習の時間の意義及び原理、総合的な学習の時間の指導計画の作成、及び総合的な学習の時間の指導及び評価について学修する、総合的な学習の時間の指導法に関わる授業科目が創設される予定である。教員を目指す多くの学生が、総合的な学習の時間が子どもの学びと育ちに果たすべき役割についてとらえ、実践に向かうことができる指導法を身に付けていけるような講義を目指していきたい。

引用文献

文部科学省・国立教育政策所：「平成25年度全国学力・学習状況踏査報告書クロス集計」， p.9， 2013.
 文部科学省：「資料3 学習指導要領改訂の動向について『高等学校の教科・科目構成について(案)』」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryu/_icsFiles/afiefieldfile/2016/08/01/1374211_05.pdf， 2017.7.14アクセス